

In April 2022, Osaka City University and Osaka Prefecture University merge to Osaka Metropolitan University

Title	否定辞を伴う「マデモ」
Author	藪崎, 淳子
Citation	文学史研究. 51 卷, p.32-43.
Issue Date	2011-03
ISSN	0389-9772
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	Publisher
Publisher	大阪市立大学国語国文学研究室
Description	

Placed on: Osaka City University Repository

Osaka Metropolitan University

否定辞を伴う「マデモ」

藪崎 淳子

1. はじめに

本稿が扱うのは、次のようなマデの用法である。

- (1) 風邪ぐらい、病院へ行くまでもない。
- (2) 病院へ行かないまでも、風邪薬は飲んでおこう。

(1)(2)のマデは、「マデモない」「ないマデも」と固定した形で使われる。いずれもモを後接し、否定辞を伴う点で共通するものの、先行研究の多くは、これらを慣用的な用法とするに留まり、両者の関係を問うことも、また当該用法のマデと他の用法のマデとの関係を論じることもない。⁽¹⁾ こうした中、小柳(一九九九・48)は「ないマデモ」も「マデ」の他の用例と断絶しているわけではない」と述べる。当該用法のマデは固定した形でしか用いられない点で特殊ではある。しかし、これもマデという形式で表される以上、他の用法のマデと連続するところがあるろう。また、この「ないマデモ」と同様に、「マデモない」も他の用法のマデと連続するところがあると本稿は考える。

「マデモない」と「ないマデモ」を分析し、両者の相互関係、並びにこれらと他の用法のマデとの関係を明らかにすることが本稿の目的である。

2. マデの三つの用法

「マデモない」「ないマデモ」の分析の前に、まずはマデの用法を押さえておきたい。本稿は、マデの諸用法は次の三種に大別されると考えている。

- (3) 異常なまでに執着した。……………程度用法
 - (4) 太郎まで来た。……………取り立て用法
 - (5) 仕事に応じて五千円から一万円まで支払う。…限度用法
- (3)は「異常だと感じる程度に執着した」ことを表している。つまり、このマデは「異常な」と結びつくことで、後続する「執着した」の表す状態の程度を表している。このように、マデに後続の語句の表す状態や動作の程度量を、前接語句との結びつきによって表すのが「程度用法」である。(4)は、「次郎、三郎だけではなく、太郎も来た」という意味を表している。マデは文中で「太郎」を示すのみでありながら、言外の「次郎、三郎」など、「来た」という意味で同類の他の項目も想起させる「範列関係」を表している。⁽²⁾そして(4)では、この範列関係にある項目がいずれも「来た」こと、即ち累加の関係にあることを表している。このように、範列関係にある項目同士の関係―累加や限定―を表すのが「取り立て用法」である。(5)は「仕事に応じて支払われる

金額の下限が五千円、上限が一万円である”ことを表している。マデは金額の上限を示すのみで、「支払う」という動作の量そのものを表すので、「五千円：六千円」に加えて「一万円も支払われる」といった累加や、「五千円や六千円ではなく一万円が支払われる」といった限定を表すのではない。また、「支払う」という動作がマデの示す「一万円」に必ずしも到達するわけではない点でも、(3)(4)とは異なる。このように、到達点を想定し、述語の表す動作が実現する限度を示すのが「限度用法」である。

以上見てきたマデの三つの用法と、「マデモない」「ないマデモ」の関係を明らかにすべく、まずは次節で当該用法を分析する。

3. 「マデモない」と「ないマデモ」

本節では、「マデモない」「ないマデモ」の順に分析し、両者の関係を考える。なお、「マデモない」「ないマデモ」に前接する動詞句の表す事柄を、以下では「当該項目」と呼ぶ。

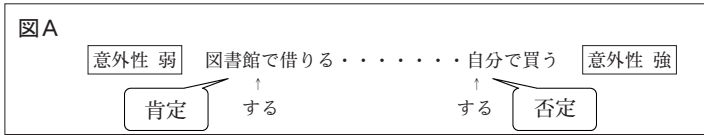
3.1 「マデモない」

まずは、「マデモない」から見ていく。

- (6) その本は自分で買うまでもありません。図書館で借りれば十分です。

(森田・松木一九八九・223のh)

森田・松木(一九八九・223・224)は(6)について、「自分で買う」という程度の重い事柄は必要ないが、その前段階である「図書館で借りる」という程度の軽いことはしてほしいという意識があると述べる。このことは図Aのように示される。図Aでは、「図書館で借りる」よりも



「自分で買う」方が、「する」こととして意外性が強いことを表している。このうち、意外性が強く程度の高い「自分で買う」ことは否定され、意外性が弱く程度の低い「図書館で借りる」ことは否定されない。そのため、「図書館で借りる」ことで足り、「自分で買う」という意外性の強いことをする必要はないという意味を表す。

同様の例を見てみよう。

(7) これだけ円高だと、買い物のためだけにハワイへ、とも思えてくる。が、もう一歩先を行くテクニクもある。都内で働く30代のスタイリストが言う。

「わざわざ行くまでもないですよ。いま目先のきく人間は、海外のネットオークションをやっている。円高で何でも超お得。(略)」

(週刊朝日二〇〇九年二月一日)

(7)はブランド品の入手方法として、「する」ことの意外性の弱い「海外のネットオークションで買う」から、意外性の強い「ハワイへ行って買う」へと項目が序列づけられている。このうち、意外性の強い「ハワイへ行って買う」ことのみが否定され、それより意外性の弱い「海外のネットオークションで買う」という手段は否定されない。そして、手軽で意外性の弱い「海外のネットオークション」で十分であり、労力がかかり、意外性の強い「ハワイへ行く」ことは必要ないことを表している。

ここまで見た(6)(7)は、「マデモない」の示す意外性の強い手段の他にも、聞き手が考えてもみななかった意外性が弱くて手軽な手段があることを、話し手が新たに提示している。そして、意外性の弱いことで足り、労力のかかる意外性の強いことは必要ないといった意味を表す点で共通している。「マデモない」には(6)(7)のようなタイプの他、「言うまでもない」に代表される「自明である」といった意味を表すタイプもある。

(8) 世界地図を見る^{までもなく}、目と鼻の先にある日本と韓国は、
これまで多くの難題を克服してきた。

(朝日新聞二〇〇九年二月二〇日)

これは先の(6)(7)とは一見異なる意味を表しているかのように見えるものの、「自明である」という意味を表す理由は同様に説明される。(8)では、「日本と韓国が近いことを確認する方法」として、文中に明示されている「世界地図を見る」の他、言外の「頭の中に地図を思い描く」などが想起されよう。このうち、「世界地図を見る」方が労力がかかり、「ずる」ことの意外性が強い。これを当該項目として否定し、「日本と韓国が近いことは頭の中に地図を思い描くだけで分かる」のであり、手間がかかって意外性の強い「世界地図を見る」必要はないといった意味を表している。このように、意外性の強い、特別な手段を講ずることもなく、「(日本と韓国が近いことは)既存の知識で分かる」ことを表す。そのため、「マデモない」は「自明である」という意味を表す。

以上見てきたように、「マデモない」は意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い項目をマデで示し、それ

のみを否定する。そして、手軽で意外性の弱いことが成り立てば十分であり、労力がかかって意外性の強いことは実現する必要はないといった意味を表す。

3・2 「ないマデモ」

本節では、「ないマデモ」を見ていく。

(9) 天は二物を与えない^{までも}、一つくらい人に
負けないキラリと光る何かを、親は子に望む。

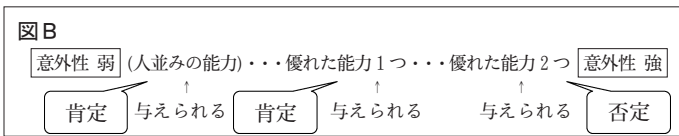
(朝日新聞二〇〇八年二月一日)

(9)は「天が我が子に二物を与える」という非常なことは成り立たなくてもよいが、せめて「他人より優れたところが一つある」ことは成り立ってほしいといった意味を表している。このことを図示すると、図Bの通りである。図に示したように、(9)は「天に与えられる」ものとして意外性の弱い言外の「人並みの能力」から、意外性の強い「優れた能力二つ」と順序づけられている。このうち、最も意外性の強い「優れた能力を二つ与えられる」ことをのみ否定する。そして、「二物を与えられる」ことは成り立たなくとも、それより意外性の弱い「他人より優れた能力が一つ与えられる」ことが成り立てばよいという意味を表す。

他の例も見てみよう。

(10) なぜ宗教が殺人と結びつくのか。

その一番の理由は、「同類を殺すな」という



場合の「同類」の意味の取り違えである。それを「同じ考えを持つ者」と限定してしまうと、「自分たちの考えに従わない者は同類ではない。敵だ。敵なら殺しても構わない」という理屈になる。殺さない「までも」、「敵なら苦しめてもよい」と、憎しみが正当化される。

(朝日新聞二〇〇八年一月二三日)

(10)では「同類ではない相手」への対処のし方には、言外の「考えに従うよう説得する」の他、「苦しめる」「殺す」などがあることが示されている。これらのうち、(10)のマデが示すのは、「することとして最も意外性の強い」「殺す」である。そして、この当該項目のみを否定することで、「同類でない敵を殺すことはしないが、苦しめることはする」ということ、即ち意外性の強い当該項目は成り立たないが、意外性の弱い他の事柄は成り立ってもよいといった意味を表している。以上見てきたように、「ないマデモ」は意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い項目をマデで示し、これのみを否定する。そして、意外性の強い当該項目は成り立たずとも、意外性の弱い事柄が成り立てばよいという意味を表す。

3・3 「マデモない」と「ないマデモ」の関係

本節では、3・1で見た「マデモない」と、3・2で見た「ないマデモ」の関係を考えたい。

(1) 風邪ぐらい、病院へ行く「までも」もない。

(2) 病院へ行かない「までも」も、風邪薬は飲んでおこう。

(1)の「マデモない」は、「風邪を治す」には「病院へ行く」「薬を飲む」「休養する」などの手段がある中、最も労力がかかり、「すること

として意外性の強い「病院へ行く」をマデで示し、これを否定する。そして、「風邪ぐらいでわざわざ病院へ行く必要はなく、薬を飲んで休養すれば十分である」という意味を表す。(2)の「ないマデモ」も、「風邪を治す」手段のうち、最も労力がかかり、「することとして意外性の強い」「病院へ行く」をマデで示し、これを否定する。そして、「病院へ行かなくてもよいが、風邪薬を飲むことぐらいはしよう」という意味を表す。つまり、「マデモない」「ないマデモ」は、意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い項目を当該項目として、そのみを否定し、意外性の強い当該項目は実現せずとも、意外性の弱い事柄が実現すればよいという意味を表す点は同じである。ただし、(1)の「マデモない」は、「病院へ行かずともよい」という、意外性の強い事柄の実現は不要であるという意味を表すところに主眼があるのに対し、(2)の「ないマデモ」は、「風邪薬を飲むことぐらいはしよう」という、意外性の弱い事柄が成り立てばよいという意味を表すところに主眼があるといった差がある。

「マデモない」と「ないマデモ」は、意外性の強い項目を当該項目とし、そのみを否定するというマデの働きはいずれも同じである。にもかかわらず、両者の表す意味に差があるのはなぜであろうか。次節ではこの問題を考える。

4. モと否定辞の結びつき

3節での分析から、「マデモない」と「ないマデモ」は、マデの働きそのものは同じであると考えられる。しかし、「マデモない」は「意外性の強い事柄の実現は不要である」という意味を、「ないマデモ」

は「意外性の弱い事柄が成り立てばよい」という意味を表すところにその主眼がある点で異なる。こうした差が生じる理由は、モと否定辞の結びつき方にあることを本節では示す。

4・1 「マデモない」と「ことモない」

「動詞のル形＋ことモない」という結びつきには、「マデモない」と類似した意味を表す場合がある。⁽⁴⁾

(1) 風邪ぐらい、病院へ行くまでもない。

(11) 実際に大学受験では理系を受けたのですが、失敗したんです。そうなってみると、学問は実学、つまり理系を選ぶべきだと言っていた父は、もういけませんし、結局人生の答えをさがすのは自分しかいない。理系にこだわることもないかと思って、早稲田の仏文に入りました。
(朝日新聞二〇一〇年四月六日)

(12) 「はとバス」は、主婦に人気の日帰りメニユーにゴルフツアーを加えた。初めてコースに出る人を想定し、ラウンド数は通常の半分。プロのレッスンも受けられる。ゴルフ場までの交通手段を気にすることもない。
(朝日新聞二〇一〇年三月九日)

(13) 急ぐこともないと今日はちよっとコースを変えたところ思いもかけぬ風景に出会った。
(朝日新聞二〇一〇年三月二六日)

(1)と(11)と(13)を比較すると、動詞のル形の表す事柄を、(1)はマデが受けるのに対し、(11)と(13)は形式名詞の「こと」が受ける点で異なるのみで、モに否定辞が後接している点は同じである。⁽⁵⁾

(11)と(13)を見ると、「こと」に前接する動詞句の表す事柄は不要であるという意味を表しており、この点で(1)の「マデモない」と類似して

いる。(11)は「理系にこだわらなければならない」と、当該の事柄の実現は不要であることを表している。(12)は「ゴルフ場までの交通手段を気にする必要はない」という意味を、(13)は「急ぐ必要はない」という意味を表している。このように、「動詞のル形＋ことモない」という結びつきには、当該の事柄は不要であるとする意味を表す場合がある。⁽⁶⁾従って、「マデモない」が、当該の事柄は不要であるという意味を表すところを主眼とするのは、モに否定辞が後接した場合に、当該の事柄は不要であるとする意味を表すことができることが関係しているといえよう。

ただし、「ことモない」は、不要であるという意味は表しても、不要であるとする事柄が他に比べて意外性が強いという意味は表さない点で、「マデモない」とは異なる。(11)であれば不要とされる当該項目の「理系にこだわること」と、「文系を選ぶこと」の間に意外性の強弱はなく、(1)のような「意外性の強い事柄の実現は不要である」という意味は表していない。(12)の「ゴルフ場までの交通手段を気にすること」と、「天候などを気にすること、また(13)の「急ぐことと「ゆっくり行く」ことの間にも、いずれの方がすることとして意外性が強いといった程度差はない。このことから、「マデモない」の表す、当該の事柄は不要であるという意味はモとそれに後接する否定辞の結びつきが表すものの、不要であるとする事柄と、成り立つ事柄の間の程度差はマデが表しているといえる。

4・2 「ないマデモ」と「なくてモ」

「なくてモ」という結びつきには、「ないマデモ」と類似した意味

を表す場合がある。⁽⁷⁾

(2) 病院へ行かないまでも、風邪薬は飲んでおこう。

(14) ワクチンをまだ接種していない人は打って欲しい。強毒性には効かなくても弱毒性の変異株には効く。

(朝日新聞二〇一〇年五月一日)

(15) 日本では化学の知識がなくても測定器の操作を覚えれば水質検査はできる。
(朝日新聞二〇一一年三月一日)

(16) 本人の臓器提供の意思を示す書面がなくても、家族配偶者、子、父母、祖父母、同居の親族が承諾すれば、脳死になった人から臓器を提供出来るようにルールが変わった。

(朝日新聞二〇一一年二月一日)

(2)と(14)を比較すると、否定辞とモの間にマデが挿入されているか否かという点では異なるものの、否定辞にモが後接している点は同じである。

(14)と(16)の「なくてモ」は、それが示す当該の事柄が成り立たずとも、並列する他の事柄が成り立てばよい、という意味を表しており、(2)の「ないマデモ」と表す意味が類似している。(14)は、「強毒性に効く」とは成り立たなくても、「弱毒性の変異株に効く」ことは成り立つことを表している。そして、「ワクチンをまだ接種していない人は打って欲しい」と述べていることから、「弱毒性の変異株に効く」ことが成り立てばよく、またそれで十分であると話し手が捉えているといえる。(15)は、「化学の知識がある」ことは成り立たなくても、「測定器の操作を覚える」ことが成り立てば「水質検査はできる」こと、即ち当該の事柄は成り立たなくても、並列される事柄が成り立てばよいという意

味を表している。(16)も「本人の意思を示す書面がある」ことは成り立たなくても、「家族が承諾する」ことが成り立てばよく、それでも「臓器を提供出来る」ことを表す。従って、「ないマデモ」が、当該の事柄はともかく、並列される事柄が成り立てばよいという意味を表すところを主眼とするのは、否定辞にモが後接する場合に、それが示す当該の事柄は成り立たなくても並列する他の事柄が成り立てばよいという意味を表すことができる⁽⁸⁾といえる。

ただし、「なくてモ」は、成り立てばよいと考える他の事柄が、成り立たなくともよいとする当該の事柄に比し、意外性が弱いという意味を表すものではない点で、「ないマデモ」とは異なる。(14)の場合、当該項目の「強毒性に効く」ことよりも、他の項目の「弱毒性の変異株に効く」ことの方が意外性が弱い。つまり、(14)は意外性の弱い事柄が成り立てばよいことを表す点で「ないマデモ」と同じものの、(15)(16)を見ると、「なくてモ」が常にこうした意味を表すわけではないことが分かる。(15)では「水質検査ができる条件」が並列されているが、「化学の知識がある場合に水質検査ができる」ことに比べ、「測定器の操作を覚えていれば水質検査ができる」ことの方が意外なことと捉えられる。つまり、(15)は「ないマデモ」とは逆に、成り立てばよいとされる事柄の方が意外性が強い。(16)も当該項目の表す「本人の意思を示す書面があつて臓器が提供出来る」ことと、他の項目の表す「家族の承諾で臓器が提供出来る」ことでは、後者の方が意外性が強く、(15)と同様、意外性の強い事柄が成り立てばよいことを表しているといえる。このように、「なくてモ」は意外性の弱い事柄が成り立てばよいという意味を常に表すものではなく、事柄同士の程度差には関知しない点で(2)の「ないマデモ」

とは異なる。このことから、「ないマデモ」の表す、当該の事柄は成り立たずとも、それと並列される事柄が成り立てばよいという意味は、「なくてモ」のように、否定辞にモが後接することによって表されるもの、事柄同士の程度差はマデが表しているといえる。

4・3 まとめ

「マデモない」と「ないマデモ」は、意外性の強い当該項目のみを否定し、意外性の強い事柄は実現しないが、意外性の弱い事柄は成り立つということを表す点は同じである。しかし、前者は「意外性の強い事柄の実現は不要だ」という意味を、後者は「意外性の弱い事柄が成り立てばよい」という意味を表すところに主眼がある点で異なる。それは、前者であれば「ことモない」と、モに否定辞が後接する際に、当該の事柄は不要であるという意味を表すことができ、後者であれば「なくてモ」と、否定辞にモが後接する際に、当該の事項が成り立たなくとも、それと並列する他の事柄が成り立てばよいという意味を表し得ることが影響していると考えられる。従って、「マデモない」と「ないマデモ」の表す意味の差は、モと否定辞の結びつき方によるものであり、程度差のある事柄同士の関係を表し、そのうちの最も意外性の強い当該項目のみを否定するというマデの機能は同じであるといえる。

5. 他の用法のマデとの関係

3節、4節を通じて、「マデモない」と「ないマデモ」を考察した。その結果を踏まえ、本節では、これらのマデと他の用法のマデとの関係を考えたい。

5・1 「取り立て用法」のマデとの関係

当該用法のマデが事柄同士の関係を表すということは、即ちこのマデが範別関係を表すことを意味する。従って、2節で概観したマデの三つの用法のうち、当該用法は「取り立て用法」と同種であることが分かる。この「取り立て用法」のマデにも、「マデモない」「ないマデモ」と同じく、意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い項目を当該項目とする、「極限」を表す用法がある⁹⁾。

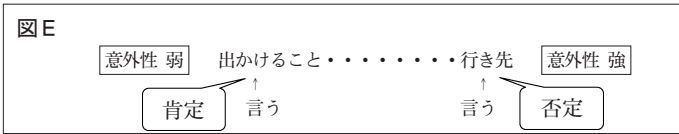
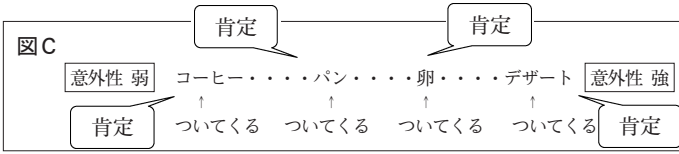
(17) 名古屋のモーニングにはデザートまでについてくる。

(17)は名古屋のモーニングについてくるという意味で「ゴーチー、パン、卵」などと「デザート」が範別関係にある。これらの項目は、図Cに示したように、意外性の度合いによって序列づけられている。そして、当該項目の「デザート」は、「モーニングについてくる」ものとして最も意外性が強い。この(17)のように意外性の強い項目を当該項目とする「極限」のマデは、肯定述語文に限らず、否定述語文にも生起可能である。そして、この否定述語文に生起する「極限」のマデには、次のような二種あることが茂木(一九九九)、井島(二〇〇七)、沼田(二〇〇九)に論じられている¹⁰⁾。

(18) 行き先だけならまだしも、出かけることまで言わなかった。
(19) 出かけることは言うが、行き先まで(は)いちいち言わなかった。

(18)は図Dのように、「行き先」を「言わない」のはそれほど意外ではないが、「出かけること」を「言わない」のは意外性が強いことを表す。つまり、「言わない」という否定事態における意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い「出かけること」を当

該項目とする。そして、「行き先」はもちろん、「出かけること」も言わなかったと、全ての項目を否定している。一方、(19)は図Eのように、「出かけること」を「言う」ことはそれほど意外ではないが、「行き先」を「言う」ことは意外性が強いことを表す。つまり、「言う」という肯



定事態における意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い「行き先」を当該項目とする。そして、「出かけること」は言ったが、「行き先」は言わなかったと、当該項目のみを否定している。

先にあげた図A、Bと、図D、Eを比べてみよう。「マデモない」の図A、「ないマデモ」の図Bは、肯定事態における意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い当該項目のみが否定されている。こうした特徴は図Eと同じである。従って、「マデモない」と「ないマデモ」は、否定述語文に生起する「極限」のマデモのうち、(19)のタイプと同じ性質を有していることが分かる。

5・2 「マデモない」「ないマデモ」と「極限」のマデモ

5・1で述べたことを検証すべく、「マデモない」「ないマデモ」と、(19)のマデモを、それぞれ言い換えてみよう。

- (1) a. 風邪ぐらい、病院へ行く**まで**でもない。
- b. 風邪ぐらい薬を飲めば治ると言い、病院へ行くこと**まで**(は)しない。
- (6) a. その本は自分で買う**までも**ありません。図書館で借りれば十分です。
- b. その本は図書館で借りれば十分だから、自分で買うこと**まで**(は)しない。
- (10) a. 病院へ行かない**までも**、風邪薬は飲んでおこう。
- b. 風邪薬を飲むだけで、病院へ行くこと**まで**はしない。

b. 苦しめることはしても、殺すことまで(は)しない。

(19) a. 出かけることは言うが、行き先まで(は) いちいち言わない。

b. 近所に出かけるくらい、行き先を言うまでもない。

c. 行き先を言わないまでも、出かけることは言っ**て**ほしい。

(1)を見ると、「マデモない」で表す a は、「(病院へ行くことは) 不要である」という意味を強く表すのに対し、「マデモない」を用いない b は、意外性の強い事柄は実現しないという意味を表すに留まる点で意味の差はある。しかし意味の差は、4・1 で見た「ことモない」のように、モに否定辞が後接する場合に「不要である」という意味を表し得ることが影響しているためであると考えられ、a b のいずれも「病院へ行く」「風邪薬を飲む」「休養する」のうち、「病院へ行く」ことのみが否定される点は同じである。次に(2)を見てみよう。「ないマデモ」で表す a は、後続の「風邪薬は飲んでおこう」という意外性の弱い事柄が成り立てばよいという意味を表すところに主眼があるのに対し、「ないマデモ」を用いない b は、意外性の強い事柄は実現しないという意味を表すに留まり、やはり意味の差は認められる。しかし、意味の差は、4・2 で見た「なくてモ」のように、否定辞にモが後接する場合、当該の事柄はともかく、それと並列する他の事柄が成り立てばよいという意味を表し得ることによるものと考えられる。いずれも、「病院へ行く」「風邪薬を飲む」「休養する」などのうち、「病院へ行く」ことのみが否定される点で共通している。

「マデモない」と「ないマデモ」は、モが後接するために、単に「極限」のマデが否定述語文に生起する場合は表す意味の主眼の置

き方は異なる。しかし、意外性の度合いによって序列づけられた項目のうち、最も意外性の強い当該項目のみを否定するというマデの機能は同じである。従って、「マデモない」「ないマデモ」のマデは、「取り立て用法」に位置づけられる「極限」のマデと同類のものと思えられる。

【注】

(1) 此島(一九六六:263)、寺村(一九九一:113)は、(1)(2)に相当する用法のいずれも「一種の慣用的用法」「慣用的な使いかた」とする。また、林(一九六九:525)、沼田(一九八六:192)は(1)に相当する用法のみをあげ、「慣用句的接続」「慣用句」とする。

(2) 「取り立て用法」が「範列関係」を表すものであることは、益岡・田窪(一九九二)、丹羽(二〇〇一、二〇〇六)、沼田(二〇〇九)などに詳しい。

(3) このことは、「マデモない」と共起し易い成分ともかわる。

・風邪(ぐらい／なんか／?)は 病院へ行くまでもない。

(1)は、「風邪」はたいしたことではないといった意味を表す、クライ、ナンカが共起する方がより自然である。「たいしたことではないから、意外性の強い事柄の実現は不要である」という意味を表すからこそ、クライ、ナンカと共起し易いのであろう。

(4) 「動詞のル形+ことモない」という結びつきであれば、常に「マデモない」と類似した意味を表すというわけではない。「夕食後は水以外摂らない。ジュースを口にすることもない」「こんなには責任の重い仕事はできないし、頼まれることもないだろう」な

ど、「不要である」という意味を表さない場合もある。「動詞のル形十ことモない」がどのような意味を表すことができ、またどのような条件で「不要である」という意味を表すのかは、今後の課題としたい。

(5) 「マデモない」は「マデのことモない」という形で使われる場合がある。このことから、「マデモない」は、(11) (13) のような「ことモない」という結びつきにマデが付加されたものと見ることもできる。

・教科書を見ればわかるわけですから、わざわざ説明するまでものこともないと思います。
(森田・松本一九八九: 223)

・この程度の風邪なら、医者に行くまでのこともない。うまいものを食べて、一日ぐっすり眠れば治る。

(グループ・ジャマシー一九九八: 547)

(6) 本稿の目的とは異なるが、なぜ「動詞のル形十ことモない」という結びつきが「当該の事柄は不要である」という意味を表し得るのか、またこのモは何を表しているのかという問題もある。当該用法のモは極限的な意味を表すマデやサエと類義の、いわゆる「意外のモ」とは異なり、沼田(二〇〇九)が述べる「累加」を表す「も」、定延(一九九五)が述べる「基本的なモ」「色々のモ」「通念のモ」「当たり前のモ」に類するものと考えられる。「そこまでのぐらいかかりますか?」という問いに対する「一時間もかからない」といった数量詞に接続するモと否定辞の結びつきに、「不要である」という意にとれる場合があることも関連するかもしれない。当該用法のモの位置づけは今後の課題である。

(7) 「なくてモ」は、常に「ないマデモ」と類似した意味を表すわけではない。「天気がよくなくてもかける」「太郎が来られなくてもパーティーは予定通り行う」など、主節の表す事柄が成り立ってよいという意味を表すことを主眼としない場合もある。

(8) 小柳(一九九九: 48)は、「ないマデモ」が意外性の弱い事柄が成り立つことを表すのは、「モがそれ以外(以下)の事態の在ることを暗示する」ためであると述べる。これは、本稿が言わんとすることと同様の趣旨の主張と理解されるものの、この説明のみでは「マデモない」との差をどう捉えているのかは分らない。

なお、本稿の目的とは異なるが、当該用法のモが何を表すのかという問題もある。此島(一九七七)は、「接続的に解せられる「も」は、順接と逆接のいずれを表す場合も「係助詞の提示用法」のモであると見る。これに対し、逆条件を表す場合は、意外の意味を表すモであるとする立場(前田一九九三、沼田二〇〇九)もある。前田(一九九三: 157)は「逆条件のテモの用法は(中略)「意外」のモによって表されるのであり、期待度が小さい要素を取り立てたこと、つまり、通常ならば後件を引き起こさない事態を取り立てたということから、生じて来る」と述べる。しかし、「して」自体にも逆条件を表す用法があり(仁田一九九五: 120参照)、意外の意味を表すモが生起することで、「して」が逆条件を表すようになると言えるのか疑問である。また、前田の「期待度が小さい要素を取り立てた」ものとの見方にも疑問が残る。それは、(14)の場合、モが後接する「ワクチンが強毒性に効かない」とは「期待度が小さい要素」とは言い難く、むしろ意外性が弱い

ことと捉えられるからである。また、「取り立てた」要素とは否定辞を含むものではないのだと捉えても、(15)で「取り立てた」化学の知識があることは、並列される「測定器の操作を覚える」ことに比べて「水質検査ができる条件」として意外性が弱く、やはり「期待度が小さい要素」とは言えない。逆条件を表す「してモ」は、(14)(15)のように、事柄の「期待度」の大小を問わず「取り立て」ることができることから、このモが「意外」のモであるとは考え難い。今後「してモ」の分析を行い、当該用法のモの位置づけも明らかにしたい。

(9) この他、取り立て用法のマデには次の二つの用法があると本稿は考えている。

- ① 問題集の一番から五番まで宿題にした。
- ② 誰もやらないなら僕がやるまでだ。

①は「宿題にした」という意味で同類の項目の範囲を示し、結果として「五問宿題にした」という項目の累積量を表す。②は「誰もやらない」という状況において考えられる、「誰かにやらせる」「誰かがやるのを待つ」「僕がやる」といった選択肢のうち、最も難易度の低い「僕がやる」に限定することを表す。

(10) 否定述語文に生起する「極限」のマデに二種ある理由、またこれらと肯定述語文に生起する(17)のようなマデとの関係については、別に論じる。

(11) 注10にも述べたように、「極限」のマデの詳細は別稿で論じるが、これは当該項目の表す事柄に対し、「実現しなくともよい」「実現しないではない」「実現すべきではない」といった、実現しないこと

を是とする評価を表すと本稿は考えている。「マデモない」「ないマデモ」は、当該項目の表す事柄は成り立たずともよい、あるいはそれは成り立たずとも他の項目の表す事柄が成り立てばよいことを表すものである。このように、「マデモない」「ないマデモ」と「極限」のマデは、当該項目の表す事柄が実現しなくともよいという評価を表す点でも共通している。

【参考文献】

- 井島正博 (二〇〇七) 「サエ・マデ・デモ・ダッテの機能と構造」『日本語学論集』三、東京大学
- グループ・ジャマシイ (一九九八) 『教師と学習者のための日本語文型辞典』くろしお出版
- 此島正年 (一九六六) 『国語助詞の研究―助詞史の素描―』桜楓社
- (一九七七) 『いわゆる逆接の「も」』『国語研究』四〇、国学院大学
- 小柳智一 (一九九九) 「中古のマデ―第一種副助詞―」『国語学』一九九
- 九
- (二〇〇八) 「副助詞研究の可能性」『日本語文法』八一―二
- 定延利之 (一九九五) 「心的プロセスからみた取り立て詞モ・デモ」『日本語の主題と取り立て』くろしお出版
- 寺村秀夫 (一九九二) 『日本語のシンタクスと意味Ⅲ』くろしお出版
- 仁田義雄 (一九九五) 「シテ形接続をめぐって」『複文の研究(上)』くろしお出版

日本語記述文法研究会 (二〇〇三) 『現代日本語文法 4 第8部モダ

リテイ』くろしお出版

丹羽哲也（一九九二）「副助詞における程度と取り立て」『人文研究』

四四―一三、大阪市立大学

——（二〇〇一）「取り立て」の範囲」『国文学 解釈と教材の

研究』四六―二、学燈社

——（二〇〇六）「取り立て」の概念と「取り立て助詞」の設定

について」『文学史研究』四六、大阪市立大学

沼田善子（一九八六）「とりたて詞」『いわゆる日本語助詞の研究』凡

人社

——（二〇〇〇）「とりたて」『日本語の文法？ 時・否定と取り

立て』岩波書店

——（二〇〇九）『現代日本語とりたて詞の研究』ひつじ書房

林巨樹（一九六九）「まで―副助詞〈古典語・現代語〉」『古典語現代

語 助詞助動詞詳説』学燈社

前田直子（一九九三）「逆接条件文「〜テモ」をめぐる」『日本語の

条件表現』くろしお出版

益岡隆志・田窪行則（一九九二）『基礎日本語文法―改訂版―』くろ

しお出版

宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃（二〇〇二）『新日本語文

法選書4 モダリテイ』くろしお出版

茂木俊伸（一九九九）「とりたて詞「まで」「さえ」について―否定と

の関わりから―」『日本語と日本文学』二八、筑波大学

森田良行・松木正恵（一九八九）『日本語表現文型』アルク

【用例出典】

『聞蔵Ⅱ』